

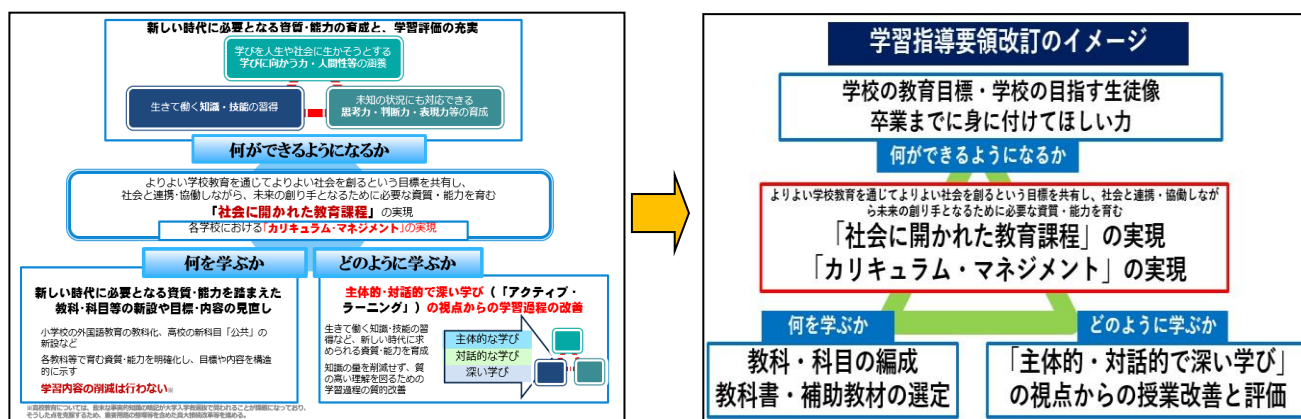
# 新学習指導要領実施に向けて

## 1. 新学習指導要領実施の理解

新学習指導要領の円滑な実施に向けては、下のイメージ図にまとめられているように、学習指導要領の改訂に込められたキーワードを理解することが必要です。加速度的に変化する予測困難な時代を生きる子供たちに必要な資質・能力とは何か？学校教育でどのようにその力を育てていくのか？など、各学校の教育課程に置き換えて可視化し、学校や先生方の役割をそれぞれの立場で考えていくことがとても重要になります。

保護者や地域と連携し、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指して、生徒たちが「何ができるようになるか」を各学校の実情に応じて考えていくことが求められています。育成すべき資質・能力を各学校の教育目標や目指す生徒像として明確にし、その上で「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、「どのように評価するか」を含めた教育課程を有機的に組み立て、教育の質を向上していく「カリキュラム・マネジメント」を行っていくこととなります。

新学習指導要領は令和4年度入学生から年次進行で実施されますが、その準備として、先に述べた「重要なキーワード」を理解するとともに、先生方一人一人が、それぞれの学校で、生徒にどのような力を付けさせるかを念頭に置いて、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行うことが大切です。



外国語科の目標は、「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する」ことです。新学習指導要領では、各教科等の「目標」「内容」の記述を、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の3つの柱で整理されていますが、外国語科においても、目標の達成のために、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」のそれぞれに関わる外国語特有の資質・能力を育成する必要があり、その際に、外国語教育の特質に応じて、生徒が物事を捉え、思考する「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせることが重要であるとしています。外国語科の目標を確認しましょう。

「見方・考え方」という言葉は、どの教科にも共通して出てきますが、「見方・考え方」は、「教科等を学ぶ本質的な意義をなすもの」、「教科等の学習と社会をつなぐもの」であり、深い学びの鍵であると言われています。学習指導要領の中で、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」は、「外国語によるコミュニケーションの中で、外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文

化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に  
応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」であると考えられるとしています。

生徒がどのような状態で英語の学習を進めていけば「見方・考え方」を働かせていることになるで  
しょうか？「主体的・対話的で深い学び」の対極にある「受け身の学び」からは、「見方・考え方」を  
働かせて学ぶ姿は見られないかもしれません。「英語を人種や文化や宗教などの枠を超えて、お互いが  
理解を深めるための重要なコミュニケーションのツールとして身に付けてほしい」、「力を付けて、自  
ら生きるフィールドを広げてほしい」などの教師の願いがあるからこそ、生徒は「英語を学ぶことの  
意味」を理解し、自らの言葉で伝えることの価値に気が付きます。また、コミュニケーションを支え  
る文法などは、しっかりと教えた上で、生徒が興味や課題意識をもち、自分自身の考えを表現したり、  
共有したりする機会を作るなど、不断の授業改善を続ける中で生まれるものが、結果的に「見方・考  
え方」を働かせる生徒の姿につながるのではないのでしょうか。生徒が学びの意義を捉え、学んだこと  
を次につなげ深めていくことが、生涯にわたって学び続ける自律した学習者となることにつながりま  
す。

#### 【外国語 第1款 目標】

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読む  
こと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や  
考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資  
質・能力を次のとおり育成することを目指す。

#### 【知識及び技能】

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、  
聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や  
場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

#### 【思考力、判断力、表現力等】

- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題につ  
いて、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解  
したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

#### 【学びに向かう力、人間性等】

- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しなが  
ら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

## 2. 学習評価について

評価については、生徒の学習状況を分析的に捉え、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学  
習に取り組む態度」の観点ごとにABCの3段階で評価することになります。外国語科の各科目「英  
語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「論理表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で、5つの領域別又は3つの領域別に3  
つの観点で評価規準を作成し、年間を通して指導と評価を行っていく必要があります。国から高等学  
校の評価に関する指針が示され次第、詳しくお伝えしていきますが、以下、参考として、小学校、中  
学校の学習評価に関する参考資料から、各単元等で評価した各領域の評価結果を、学年末に指導要録  
における観点別評価に総括する方法の一例を紹介します。(評価方法の一例であり、必ずしもこの通り  
の方法でなければならぬわけではありません。)

(例)

	ペーパーテスト等の結果 (活動の観察の結果を加味)		パフォーマンステストの結果 (活動の観察やペーパーテスト等の結果を加味)			観点別 評価	評定
	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと		
知識・技能	b	b	c	c	b	B	3
思考・判断・ 表現	b	b	c	b	c	B	
主体的に学習に 取り組む態度	b	b	b	b	c	B	

自己評価(振り返りの記述内容)を参考

「知識・技能」は、「b、b、c、c、b」となっていることから、「b」と「c」の数の比率に鑑み、「B」と総括しています。「思考・判断・表現」は、「b、b、c、b、c」となっているため、数の比率を踏まえると「B」と総括することが考えられるとともに、授業における言語活動の観察結果を加味し「B」と判断することが妥当と考え「B」と総括しています。「主体的に学習に取り組む態度」は、「b、b、b、b、c」となっているため、数の比率から「B」と総括しています。

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校、中学校)

先生方には、各学校で評価の方法についても検討いただき、学習指導要領の円滑な実施への準備をお願いしたいと思います。また、授業を通して「どのような力を付けたいか」という目標を明確にし、「どのような学習活動を仕組むか」、「生徒が考える場面と教師が教える場面をどう組み立てるか」など、生徒の学びを深め、主体性を引き出す指導が重要となります。